

自著と
その周辺

The Autoimmune Diseases-Fifth Edition
 Edited by Noel R. Rose and Ian R. MacKay
 Chapter 64, Autoimmune Pancreatitis
 and IgG4-related disease
 Shigeyuki Kawa, Hideaki Hamano and Kendo Kiyosawa

Academic Press
 1,134頁
 2013年12月刊行
 定価 24,169円

The Autoimmune Diseases は自己免疫疾患の基礎から臨床の最新知見を網羅した世界的な text book ですが、前回2006年に4版が刊行されて8年経過し、5版に改訂されました。64章を担当させていただき、4版では autoimmune pancreatitis (AIP) のみの記述でしたが、今回は The IgG4-related diseases についても解説させていただきました。このような機会をあたえていただいた編者の Ian MacKay 先生に深謝申し上げます。

2011年年末に、MacKay 先生から AIP について最新知見を含め、全く新しいものには書き直すように依頼がありました。私は臨床家ですのでどうしても clinical な記述が多くなってしまいますが病因論、免疫学的背景、遺伝的背景など basic な側面についてもしっかり記述するように指導されました。2012年の3月頃にはほぼ完成しましたが、突然、MacKay 先生から IgG4-related diseases についても追加して記述するようにと連絡がありました。多分、当時 New England Journal of Medicine に MGH の JH Stone 先生が掲載された review article 「IgG4-related disease」をご覧になったのではないかと思います。3カ月ほど費やして、それも追加してようやく完成させることができましたが、その間学会や年度末、年度初めの業務が立て込んでいて結構大変でした。しかし、MacKay 先生に信頼していただき、大きな期待をかけていただき、充実した楽しい時間でもありました。

IgG4-related disease については、信州医誌に過去何回も取り上げさせていただきましたので、詳細については申し上げることはありませんが、疾患概念の成立過程について簡単に説明申します。AIP は自己免疫学的機序が想定される特殊な膵炎ですが、血中 IgG4 が高率・特異的に上昇すること、病変膵組織に IgG4 陽性形質細胞浸潤を認めることを2001年、2002年に信州大学より世界に向けて発信しました。その後、AIP には多彩な膵外病変が合併し、それぞれの膵外病変は膵病変と同様の組織所見を呈すること、ステロイドに良好に反応することが明らかになり、AIP と共通の病態が存在することが想定されるようになりました。AIP とこれら膵外病変を総括した全身疾患として「IgG4-related diseases」の概念が提唱され、2011年ボストンでの国際会議で世界的にも承認されました。従いまして、IgG4-related disease 成立過程には信州大学の研究業績が大きく貢献しています。また、monograph 「IgG4関連疾患への誘い」、 「IgG4関連疾患アトラス」を2010年、2012年に前田書店より、「IgG4-related diseases」を2013年に Springer Japan より上梓しました。今回、これらを総括した Autoimmune Pancreatitis and IgG4-related disease が monograph 「The Autoimmune Disease」に取り上げられたのは、この疾患概念を世界的に広く認めていただくうえで、非常に意義深いことと思います。

MacKay 先生は高齢にもかかわらず1,134頁の原稿を全て自らチェックされました。本疾患のみならず自己免疫性疾患全体について最新の知見が網羅されていると思いますので、是非ご覧いただければと思います。また、MacKay 先生にはいつまでもお元気で、6版改訂の折にも執筆の機会をいただければと願っています。信州大学が IgG4関連疾患という新しい疾患概念の臨床研究に関われることは千載一遇のチャンスと考えられますが、このまま衰退していくことがないように願うところです。

(信州大学総合健康安全センター 川 茂幸)